

令和6年3月9日、筑波大学において第25回法医画像勉強会を主催いたしました。総参加者数は64名（スタッフ5名を含む）で、内訳は本会員50名（うち新規入会10名）、賛助会員3名、学生4名、非会員7名でした。会場の臨床講義室Cは定員数164名の固定机ですが、上記64名の参加者に対する広さとしては丁度過不足ない程度であったと思います。

プログラムは、特別講演2題、一般演題11題となりました。特別講演では、筑波メディカルセンター病院院長の河野元嗣先生から救急医療と死後画像の関係について、群馬大学法医学の小湊慶彦先生から群馬Aiセンター15年の軌跡について、ご講演を賜りました。いずれに関しても、本会の趣旨に則った大変貴重なご講演をいただくことが出来ました。

一般演題では、症例報告、画像診断や検案のシステム、症例研究や基礎的研究について等、幅広い内容のご発表をいただきました。座長を札幌医科大学の山口智佳先生、東海大学の磯崎翔太郎先生にご依頼し、大変円滑に会を進行していただきました。なお今回は通常に比して一般演題数が増えた印象があり、役員の皆様のご尽力により本研究会が増々発展していることの現れと考えています。一方、多数の演題について充実した発表・質疑が行われることを重視した結果、閉会時間が当初アナウンスよりも30分遅延してしまいました。この変更により、何名かの参加者には早退や懇親会欠席等の対応が必要となってしまいましたことをお詫びいたします。

この度は大変貴重な機会をいただきました、法医画像研究会の諸先生方に感謝御礼申し上げます。参加いただいた皆様、発表を賜りました皆様にも深く感謝いたします。併せて、参加登録フォームの管理をご担当いただいた小島幹子様、勉強会の準備と当日受付をご担当いただきました西健喜先生、加藤あづさ様、当日会場で進行補助をいただいた関智弘先生、佐藤健先生に厚く御礼申し上げます。

今後も日本法医画像研究会が発展することを祈念しております。

高橋遥一郎